

# 海洋教育パイオニアスクールプログラム

## 成果報告書

1. 学校名 札幌市立東白石小学校
2. 活動テーマ名 さけ学習をとおして学ぶ「命」「自然」そして「未来」  
～サーモンプロジェクト～

### 3. 実践の概要・ねらい

本学習は、全校で取り組んでいるさけ学習のうち、第5学年での取組に重点を置いている。大きな取組の柱は「放流→遡上観察→授精→飼育→放流」という一連の活動である。この活動を通し「生命の尊さ」や「自然の大切さ」、「歴史を学び未来を創る」ことを学んでいく。さけの命について学びを深め、自分の命、みんなの命へと発展させ「生命の尊さ」を学び、また「環境から学ぶ・環境について学ぶ・環境のために学ぶ」という3段階で、身の回りの生活環境・川・海へと視野を広げるとともに、本校のさけ学習の歴史や放流に対する社会情勢の変化等を学び、幅広い視点から物事を捉え、思考・判断できる子どもを育成していく。

### 4. 実践計画

- ① 活動計画・教科等との関連（別紙1）
- ② 実践の評価

第5学年の児童は、入学してからの4年間、上級生が育てたサケの放流を毎年4月に行っていたので、総合的な学習の時間を中心にさけ学習に大変興味関心をもって取り組むことができた。また、豊平川さけ科学館の見学、遡上観察やサケの授精などの体験学習を行うことにより、より効果的に進めることができた。同時に、理科の「メダカのたんじょう」「受けつがれる生命」、社会の「水産業のさかんな地域」、道徳の「自然愛護」「生命の尊重」など他教科等と関連させて、地域・川・海の環境についても視野を広げながら、環境保全や生命の尊さを学び、充実した学習を進めることができた。様々な学校行事の関係で計画から変更せざるを得なかった内容もあるが、おおむね効果的に進めることができた。

### 5. 今年度の実践

- ① 計画からの追加・変更点

年間計画		
5年		
	教科等	単元名等
1 学期	総合	「さけ放流式」(4月)
	総合	「共に生きる」(4月～5月)
	理科	「メダカのたんじょう」(6月)
	理科	「人のたんじょう」(7月)
2 学期	社会	「水産業のさかんな地域」(7月)
	社会	「水産業のさかんな地域」(8月)

「共に生きる」：12月へ変更。  
「サーモンプロジェクト①」  
4～10月：本校のさけ学習  
「サーモンプロジェクト②」  
10～3月：飼育活動  
「サーモンプロジェクト③」  
1～3月：サケの成長報告

	理科	「受けつがれる生命」(9月)
	総合	「さけの遡上観察」(9月)【サーモンプロジェクト】
	道徳	「東白石のさけ学習」(10月)【愛校心】
	総合	「さけ授精式」(11月)【サーモンプロジェクト】
	総合	さけ飼育観察(11月)
	総合	「さけのたどる道」(11月)(フィールドワーク) 【サーモンプロジェクト】
	総合	「ワイルドサーモンプロジェクトについて」(12月) 【サーモンプロジェクト】
3学期	総合	「さけ学習のまとめ」(1月)【サーモンプロジェクト】
	道徳	「自然とともに」(1月)【自然愛・動植物愛護】

フィールドワークは、日程の関係で行わなかった。

## ② 実践の成果

今年度は、本校の開校 50 周年の年で、1 年を通してそれに関わる活動を行ってきた。特に、10 月には、『つなげよう、カムバックサーモンスピリット』というテーマで、開校 50 周年記念式典が行われた。その中で、本校のさけ学習の歴史について発表することが決まっていたので、それを意識して活動計画を変更し進めた。

そこで、さけ学習への導入として、早い時期に豊平川さけ科学館に見学に行き、自分の課題を設定することとした。それをもとに探究活動を進め、調べたことをまとめ、開校 50 周年記念式典の学年発表では、その成果を発表することができた。節目の年に、サーモンプロジェクトの活動を行うことで、これまでどのような過程を経て本校がさけ学習を進めてきたかの理解を深めることができた。

また、札幌市で推進されているワイルドサーモンプロジェクトの活動にも目を向け、放流が生態系に及ぼす影響について知り、自然環境への関心をもつことができた。

## ③ 次年度への課題

子どもたちは、これまで本校で続けられてきた放流を毎年体験しているのので、豊平川さけ科学館の見学を導入時に行ったことで、より身近にサケについて興味関心をもつことができた。サケの生態という基本的な情報ではなく、そこから生まれてきた様々な課題に目を向けることができた。しかし、今年度は、学校行事で日程が厳しかったため、石狩川河口周辺のフィールドワークを行えなかった。そのため、探究活動では話題にはしていたものの、川と海とのつながりを体感することができなかった。昨年度の課題からも、フィールドワークを行う場所について、十分検討してから実施することが望ましいと考えている。

## 6. 主な連携機関及び内容

- ・札幌豊平川さけ科学館 : さけ科学館見学 (6月)  
さけ授精体験 (10月)  
さけ遡上観察 (11月)  
さけ放流 (H30年4月の予定)
- ・札幌市下水道河川局 : 川の学習パネル展に出展 (1月)



# 5年生「さけ学習をとおして学ぶ「命」「自然」そして「未来」～サーモンプロジェクト～

## 【実践のねらい】

本学習は、全校で取り組んでいるさけ学習のうち、第5学年での取組に重点を置いている。大きな取組の柱は「放流→遡上観察→授精→飼育→放流」という一連の活動である。この活動を通し「生命の尊さ」や「自然の大切さ」、「歴史を学び未来を創る」ことを学んでいく。さけの命について学びを深め、自分の命、みんなの命へと発展させ「生命の尊さ」を学び、また「環境から学ぶ・環境について学ぶ・環境のために学ぶ」という3段階で、身の回りの生活環境・川・海へと視野を広げるとともに、本校のさけ学習の歴史や放流に対する社会情勢の変化等を学び、幅広い視点から物事を捉え、思考・判断できる子どもを育成していく。

## 【主な連携機関と内容】

- ・札幌豊平川さけ科学館  
：見学、授精体験、遡上観察、放流

○時数 5月～3月 52時間（総合的な学習の時間）

○関連 理科、社会、道徳

- 目標
- （1）さけを育てる活動を通して、命の大切さや命のつながりについて気付き、愛情をもって育てることができる。
  - （2）自ら課題を見付け、進んで探究活動に取り組むとともに、開校50周年を機に、本校のさけ学習についてその歴史を知ることができる。
  - （3）さけの一生を知り、遡上観察をすることを通して、身近な川（豊平川）と広大な海洋とのつながりを実感することができる。

